

米国大統領選

民主党指名争い

共和党指名争い

クリントン氏、スーパーチューズデーも圧勝の見通し

今年 11 月の米国大統領選に向けた民主党の指名争いは 2 月 27 日にサウスカロライナ州で予備選が行われ、ヒラリー・クリントン前国務長官がバーニー・サンダース上院議員に 50 ポイント近い大差をつけて圧勝した。クリントン氏にとっては、黒人の民主党支持者からの大量得票に支えられた快勝であり、今後に弾みをつける勝利となった。逆にバーニー・サンダース上院議員は、黒人の民主党支持者の票の取り込みでクリントン氏に全く歯が立たずに惨敗を喫し、前週までの健闘の勢いが止まって、今後の戦いに大きな不安が残った。

本日 3 月 1 日は最も多くの予備選・党員集会が集中し、指名争いの序盤戦の最大のヤマ場となるスーパーチューズデーである。民主党の予備選・党員集会は 11 州で実施され全代議員の 18%の配分がここで決まる。各州の直前の世論調査の支持率によれば、クリントン氏が南部を中心に 7 州、サンダース氏が地元バーモント州でそれぞれ大差をつけ、マサチューセッツ州とオクラホマ州が接戦である。州単位の世論調査の精度は必ずしも高くないが、さすがにこの大差を逆転される可能性はないだろう。マサチューセッツ州も勢いはクリントン氏にあることから、同氏が 8 州前後を制して指名獲得へ大きく前進すると予想する。

以下、サウスカロライナ州予備選の結果を中心にこれまでの民主党の指名争いの展開を整理し、スーパーチューズデー以降の展望を考えてみる。共和党の指名争いも、不動産王トランプ氏が予備選・党員集会で 3 連勝して主導権を握り、指名獲得も現実味を帯びてきたので、スーパーチューズデーの見通しなどを示した。

1. クリントン氏のサウスカロライナ州予備選での圧勝とその理由

(1) 予想以上の黒人の強固なクリントン支持、全く歯が立たなかったサンダース氏

図表 1 民主党・サウスカロライナ州予備選の結果

2/27/2016		53人	年齢	得票数	得票率	代議員数
✓	ヒラリー・クリントン	前国務長官	68	271,367	73.5%	39
	バーニー・サンダース	上院議員 (VT, 独立派)	75	95,840	26.0%	14
非誓約代議員 (Unpledged delegates)						6

2 月 27 日に行われた民主党のサウスカロライナ州予備選は、ヒラリー・クリントン前国務長官が圧勝した。同州でのクリントン氏は、直前の世論調査で支持率が 60%弱に達し大勝は確実視されていたが、クリントン氏は実際の得票率は 73.5%、サンダース氏に 47.5 ポイントの大差をつけるという予想を超えた強さをみせた。同州予備選を終えて、クリントン氏の

獲得代議員数は 551 人に達し、85 人のサンダース氏を大幅に引き離れた。予備選・党員集会での 2 連勝に加え、自由に投票先を決定できる特別代議員によるクリントン氏への投票の表明も増えているからである。

図表 2 民主党の予備選・党員集会における候補者別代議員獲得数

月日	州・地域	形式	代議員数	クリントン	サンダース	未決定
代議員数合計			4,763	551	85	4,127
特別代議員 (Super delegates)			712	460	20	232
誓約代議員 (Pledged delegates)			4,051	91	65	3,895
2/1	アイオワ	党員集会	44	23	21	0
2/9	ニューハンプシャー	予備選	24	9	15	0
2/20	ネバダ	党員集会	35	20	15	0
2/27	サウスカロライナ	予備選	53	39	14	0
議員過半数／過半数までの必要代議員			2,383	1,832	2,298	

クリントン氏の快勝は、同州予備選の投票者の 61% を占めた黒人の 86% からという大量の得票に支えられたものだった。クリントン氏は、前週のネバダ州まで苦戦が続いてきた白人からの得票率も、サウスカロライナ州では 54% に上昇してサンダース氏に 8 ポイントの差をつけた。サンダース氏は白人男性からの得票率は 56% でクリントン氏を上回ったが、白人女性は 60% がクリントン氏に投票、投票者に占める白人男性の割合もわずか 14% だったため、惨敗につながった。

図表 3 民主党予備選・党員集会の出口調査結果（人種構成比、人種別得票率）

		白人			非白人			(非白人のうち)黒人			(非白人のうち)ヒスパニック		
月日	州・地域	構成比	クリントン	サンダース	構成比	クリントン	サンダース	構成比	クリントン	サンダース	構成比	クリントン	サンダース
2/1	アイオワ	91%	49%	46%	9%	58%	34%	3%	#N/A	#N/A	4%	#N/A	#N/A
2/9	ニューハンプシャー	93%	37%	61%	7%	49%	50%	2%	#N/A	#N/A	1%	#N/A	#N/A
2/20	ネバダ	59%	47%	49%	41%	56%	42%	13%	76%	22%	19%	45%	53%
2/27	サウスカロライナ	35%	54%	46%	65%	85%	14%	61%	86%	14%	2%	#N/A	#N/A

(注) #N/Aは得票数が少なく、得票率が未発表。(出所) CNN, Exit poll.

クリントン氏と黒人の関係は、2008 年の民主党の指名争いの頃は、黒人のオバマ現大統領と戦ったことやクリントン氏の黒人を傷付ける失言もあってかなり悪化していた。しかし、それ以前にクリントン夫妻が黒人社会と長年にわたり築いた強固な関係があり、08 年の指名争いに敗れたクリントン氏が大統領選の本選挙ではオバマ氏を支持し、オバマ政権に国務長官として加わったことで黒人社会のクリントン氏へのわだかまりは消えたといわれる。その後、2012 年大統領選ではビル・クリントン前大統領がオバマ氏の再選に貢献し、13 年に国務長官を退任したクリントン氏は黒人社会との良好な関係を保ち、今回の大統領選への出馬表明後も黒人社会の問題に熱心に取り組んできたことで、指名争いでは黒人からの強固な支持を得ている。

実際、クリントン氏の黒人からの強い支持は、党員集会参加者の 13% を黒人が占めたネバダ州から得票に表れ始めた。同州ではクリントン氏が黒人票の 76% を獲得、白人と若年層からの得票での劣勢を跳ね返して、クリントン氏の同州での勝利につながった。

逆にサンダース氏は、白人人口が圧倒的に多いアイオワ州とニューハンプシャー州では強さをみせたが、ネバダ州とサウスカロライナ州では黒人からの支持の少なさが、深刻な弱点として露呈し始めている。同氏は、ネバダ州でクリントン氏のもう一つの支持基盤といわれたヒスパニック（中南米系）からの得票では接戦に持ち込んだが、黒人票の取り込みはこれまでのネバダ州、サウスカロライナ州とも成果が出ていない。黒人社会からみれば、自らの地位向上などへの取り組みにおいてクリントン氏の貢献がサンダース氏を圧倒しているという決定的な違いがある。その上に、サンダース氏が唱える格差是正は手法として現実味を欠き、それで黒人の抱える問題が解決するとは思えないという同氏への疑念もあるという。

クリントン氏がアイオワ州、ニューハンプシャー州と苦戦を続け、サンダース氏が予想外の健闘をみせた時点では、クリントン氏がオバマ氏に敗れた 2008 年の再来を予感する声もあった。08 年にクリントン氏が当てにしていた黒人票をオバマ氏に奪われたように、今回も格差是正を熱心に訴えるサンダース氏に奪われるのではとの観測もあった。しかし、サウスカロライナ州まで指名争いが進んだ今、サンダース氏が黒人票を奪うとの見方は消え失せている。08 年にクリントン氏が黒人票を失ったのは黒人のオバマ氏と対決したから、初の黒人大統領の誕生への黒人社会の熱望があったからであり、黒人でないサンダース氏にクリントン氏が黒人票を奪われる恐れなどないとの見方が今では支配的である。

(2) 若年層のサンダース人気は依然として圧倒的だが、陣営の戦力にはなりきれず

一方、若年層の支持では、サウスカロライナ州でもサンダース氏が強さをみせて、クリントン氏を上回った。ネバダ州までと比べて 17-29 歳のサンダース氏のリードが小さくなったのは、黒人の同年齢層のクリントン氏の支持が多かったためと推測され、白人の同年齢層では他州と大きな違いはないと思われる。

図表 4 民主党予備選・党員集会の出口調査結果（世代別得票率）

月日	州・地域	17-29歳*			30-44歳			45-64歳			65歳以上		
		構成比	クリントン	サンダース	構成比	クリントン	サンダース	構成比	クリントン	サンダース	構成比	クリントン	サンダース
2/1	アイオワ	18%	14%	84%	19%	37%	58%	36%	58%	35%	28%	69%	26%
2/9	ニューハンプシャー	19%	16%	83%	22%	32%	66%	42%	45%	54%	18%	54%	45%
2/20	ネバダ	18%	14%	82%	19%	35%	62%	35%	61%	36%	28%	74%	24%
2/27	サウスカロライナ	15%	46%	54%	20%	75%	25%	47%	77%	22%	19%	88%	11%

(注)* ニューハンプシャー州は18-29歳。(出所)CNN, Exit poll.

これが、自称「民主社会主義者」のサンダース氏が、格差是正と「政治革命」を訴えていることに、多くの民主党支持の若年層が共感しての結果であることは疑いようがない。最近の若年層は冷戦後に育ち、金融危機後の格差拡大と厳しい就業環境、多額の学生ローンなど重い教育費の自己負担もあり、他の世代と違って「社会主義」への拒否感がなく、むしろ好意的な価値観を有しているとの指摘もある。実際、2015 年 5 月に実施された世論調査¹によれば、「社会主義」への好感度は、30 歳以上は非好感が好感を上回り、65 歳以上では非好感が 70%を占めるのに対して、唯一 18-29 歳は好感が 36%で非好感の 31%を上回っている。

¹ YouGov, May 6 - 8, 2015, Favorability of Socialism
http://cdn.yougov.com/cumulus/uploads/document/3csd07d2dd/tabs_OPI_socialism_20150508.pdf

とはいえ、若年層の圧倒的なサンダース氏への支持が、クリントン氏が優勢を保つ指名争いの情勢を今後変え得るほどの影響力を持つとは考えにくい。サウスカロライナ州までの民主党の予備選・党員集会では、出口調査によれば初参加者の多数がサンダース氏に投票しているが、今回の民主党の予備選・党員集会の投票率は、**2008年**と比べて低下傾向にある。**2008年**は当初、資金力と組織力で当初はクリントン氏に見劣りしたオバマ氏が、大量の小口献金と選挙運動への参加者の増加で途中からはクリントン氏を超える活発な選挙運動を展開できるようになり、指名獲得に結び付いた。しかし今回は、サンダース氏への小口献金、若年層のサンダース陣営の運動への参加どちらも増えているとはいえ、**2008年**のオバマ氏ほどの勢いはない。本選挙では**18-29歳**の若年層を中心にしたミレニアル世代が最大の有権者数になるとはいえ、サンダース陣営の選挙運動に参加している若年層はまだ全体のごく一部だろう。

もしサウスカロライナ州までサンダース氏の躍進が続いていたら、格差是正やサンダース氏の「政治革命」の実現を目指して選挙運動に新たに参加する若年層が急速に増えていき、**2008年**のオバマ陣営がみせた組織力の拡大の再現もあり得たかもしれない。だが現実には、サンダース氏がネバダ州、サウスカロライナ州と連敗したこと、黒人には同氏の主張への違和感が強いことが明らかになり、陣営の勢いが削がれ、若年層のサンダース氏への関心も少し低下した。格差が過去最大に開き、富裕層に富が極度に集中しているとはいえ、その是正を求める運動は、かつての黒人の市民権運動などに比べれば、根底にある危機感、改革への熱意と潜在的に関心を持ちうる層の規模において見劣りすることは否めない。その意味でも、サンダース氏の「格差是正」「社会革命」の訴えが、今後、クリントン氏の指名争いでの優勢を崩しうるサンダース陣営の発展をもたらすとは考えにくい。

さらに、クリントン陣営の学習効果も考慮する必要がある。**2008年**のオバマ陣営への敗北を教訓に、クリントン陣営はオバマ陣営の選挙運動の様式を学び、引き継いでいる。サンダース陣営が戦うのは、**2008年**よりも資金力と組織力を向上させたクリントン陣営である。サンダース氏は、そのクリントン陣営への「ウォールストリート」からの巨額献金等を批判して自らへの支持拡大を図り、その種のテレビ広告も目立ってきた。しかし、戸別訪問など地上戦ではかなり劣勢にあることは、一時は世論調査で互角になったネバダ州で最後はクリントン氏に競り負け、サウスカロライナ州で惨敗を喫したことで明らかになっている。若年層の圧倒的な支持があっても、その地上戦に必要な戦力の拡充は進んでいない可能性が高い。

今後、新たにサンダース氏を支持する若年層を増やして、選挙運動を盛り上げていくには、本日のスーパーチューズデーでの巻き返しが最も効くのだが、後述するようにその展望は暗い。今後の指名争いで健闘を続け、選挙運動への献金と参加者が一層増えていくという好循環の実現は難しそうである。

2. 民主党の本日のスーパーチューズデーもクリントン氏が大勝の見通し

本日3月1日は、今回の指名争いの中で最も多くの予備選・党員集会が集中し、指名争いの序盤戦の最大のヤマ場となるスーパーチューズデーである。民主党の予備選・党員集会は

11 州、1 地域で実施され、宣誓代議員 865 人、全代議員 4,763 人の 18%の獲得を目指してクリントン氏とサンダース氏が競うことになる。

この 11 州のうち 6 州は、2008 年の予備選で全投票数に占める黒人の投票の割合が 17%以上を占めていた(アラバマ州 51%、ジョージア州 51%、バージニア州 30%、テネシー州 29%、テキサス州 19%、アーカンソー州 17%)。黒人の強い支持を得ているクリントン氏には非常に有利な州といえ、現に直前の世論調査でもこの 6 州はクリントン氏がサンダース氏を 23～45 ポイントと大差をつけている。州単位の世論調査は精度が必ずしも高くはないとはいえ、本日の投票でこの差が逆転することはあり得まい。また、クリントン氏は調査時期が 1 月とはいえミネソタ州でも大差をつけている。この 7 州はクリントン氏が快勝する可能性が高い。それ以外では、マサチューセッツ州も一時はサンダース氏がリードしていたが、最新の調査ではクリントン氏が逆転して差を 5 ポイント近くに広げている。勢いがあるのはクリントン氏であることから、同州も制する可能性が高そうである。

逆にサンダース氏のリードは、圧倒的である地元バーモント州、優勢になってきたオクラホマ州に限られる。しかも、この 2 州はサンダース氏が制しても代議員数は少ない。事前の世論調査の情報がないコロラド州をサンダース氏が制する場合でも、スーパーチューズデーはクリントン氏の大勝、獲得代議員数も順調に伸ばして、指名獲得へ前進する可能性が高そうである。

図表 5 民主党の主要候補の予備選・党員集会での得票率

月日	州・地域	形式	代議員数	クリントン	サンダース		
2/1	アイオワ	党員集会	44	49.9%	49.6%	C +0.3	開票率100%
2/9	ニューハンプシャー	予備選	24	38.0%	60.4%	S +22.4	開票率100%
2/20	ネバダ	党員集会	35	52.6%	47.3%	C +5.3	開票率100%
2/27	サウスカロライナ	予備選	53	73.5%	26.0%	C +47.5	開票率100%
3/1	アラバマ	予備選	53	69.5%	24.5%	C +45.0	FiveThirtyEight, 2/14-28
3/1	アメリカン・サモア	党員集会	6				
3/1	アーカンソー	予備選	32	56.9%	32.2%	C +24.7	FiveThirtyEight, 2/4-16 (2016年1月以降の調査なし)
3/1	コロラド	党員集会	66				
3/1	ジョージア	予備選	102	64.1%	27.9%	C +36.2	FiveThirtyEight, 2/18-26
3/1	マサチューセッツ	予備選	91	48.8%	43.7%	C +5.1	FiveThirtyEight, 2/19-27
3/1	ミネソタ	党員集会	77	59%	25%	C +34	Star Tribune, 1/18-20
3/1	オクラホマ	予備選	38	42.7%	48.6%	S +5.9	FiveThirtyEight, 2/14-28
3/1	テネシー	予備選	67	59.2%	32.2%	C +27.0	FiveThirtyEight, 2/14-25
3/1	テキサス	予備選	222	60.7%	32.8%	C +27.9	FiveThirtyEight, 2/12-26
3/1	バーモント	予備選	16	10.2%	85.8%	S +75.0	FiveThirtyEight, 2/3-17
3/1	バージニア	予備選	95	57.9%	35.0%	C +22.9	FiveThirtyEight, 2/16-26
-	全米	-		49.0% 55%	41.5% 38%	C +7.5 C +17	RCP, 2/11-27 CNN/ORC, 2/24-27

(出所) Real Clear Politics, FiveThirtyEight.

サンダース氏は、劣勢に転じたマサチューセッツ州を再逆転で制する場合でも、その後の展望はあまり開けそうもない。むしろ、クリントン氏の快進撃が続く可能性のほうが高い。大票田の 3 月 5 日のルイジアナ州予備選（代議員数 51 人）、8 日のミシガン州党員集会（同 130 人）、15 日のフロリダ州予備選（同 214 人）、イリノイ州予備選（同 156 人）、ノースカ

ロライナ州予備選（同 107 人）、オハイオ州予備選（同 143 人）の全てでクリントン氏はサンダース氏に直前の世論調査で 13～41 ポイントの大差をつけている。クリントン氏が、この 3 月中旬までの指名争いで順調に勝利を重ねれば、指名獲得に必要な代議員の過半数 2,383 人はまだ遠いが、指名獲得へ着実に前進する。

それまでにサンダース氏が形勢を挽回できる可能性も低いだろう。何よりも、アイオワ州やニューハンプシャー州のように、サンダース氏の人気を支える白人でリベラル派の投票者の大多数を占める州の予備選は、本日 3 月 1 日のサンダース氏の地元バーモント州で終わってしまう。4 月になれば 19 日のニューヨーク州（同 247 人）や東部各州でサンダース氏は獲得代議員数を伸ばせるとの見方もあるが、そこまで指名争いを続けることができるかは不透明である。むしろ現時点では、ニューハンプシャー州での圧勝がサンダース氏のピークであり、今回の指名争いでは伏兵の扱いに終わる可能性が高いと思われる。

クリントン氏は、世論調査において好感度が低く、信頼できる人物との評価が低いという、本選挙に向けた懸念材料は抱えたままである。その大きな原因となったクリントン氏が国務長官の時に私用のメールアドレスを公務に使っていた問題は、国務省が昨日 2 月 29 日に同氏が在任中に送受信したメール 1700 通余りを開示して全 3 万通の公開を完了させた。クリントン氏の主張通り送受信当時に機密と書かれたメールはなし、事後に機密指定を受けたメールが 2000 通以上という結果になった。クリントン氏の大統領候補の立場を危うくする問題はこれまで生じていないため、今後の指名争いへの影響はないまま指名獲得へ進むと思われるが、FBI の調査は続くため、クリントン陣営と民主党には気掛かりであり続けよう。

3. 共和党の指名争いは不動産王トランプ氏が 3 連勝で主導権、今後に弾み

なお、今回は共和党の指名争いは取り上げなかったが、前回の報告から今回までに、不動産王トランプ氏がニューハンプシャー州からサウスカロライナ州、ネバダ州と予備選・党員集会で 3 連勝し、支持率で他候補を引き離して指名争いの主導権を握り、指名獲得も現実味を帯び始めていることは明記しておく。トランプ氏の支持は草の根保守から拡大し始めていて、支持率で 2 位の共和党主流派のルビオ氏、3 位の保守強硬派のクルーズ氏との差も拡大、トランプ氏の勢いを止められる候補がいらないという事態になっている。

本日 3 月 1 日の共和党のスーパーチューズデーも、トランプ氏が多くの州で 2 位以下に大差をつけていて、勝利を重ねる可能性が高い。トランプ氏を追うクルーズ氏は地元テキサス州を制する可能性が高いが、トランプ氏との得票差は小さく、比例配分となる獲得議員数ではトランプ氏の差を詰められないだろう。ルビオ氏は、撤退したブッシュ氏の支持を十分に取り込めず、ミネソタ州で初の勝利を上げる可能性があるにとどまっている。スーパーチューズデーで振るわず、3 月 15 日の地元フロリダ州予備選でも世論調査通りにトランプ氏に敗れるようなら、撤退への圧力が高まりかねない。こうした各候補の情勢とその要因等は、スーパーチューズデーの結果とともに、次回以降で解説することにした。

図表 6 共和党の主要候補の予備選・党員集会得票率と州別の党内支持率

月日	州・地域	形式	代議員数	トランプ	クルーズ	ルビオ	ケーシック	カーソン	調査期間
2/1	アイオワ	党員集会	30	24.3%	27.6%	23.1%	1.9%	9.3%	開票率100%
2/9	ニューハンプシャー	予備選	23	35.3%	11.7%	10.6%	15.8%	2.3%	開票率100%
2/20	サウスカロライナ	予備選	50	32.5%	22.5%	22.3%	7.6%	7.2%	開票率100%
2/23	ネバダ	党員集会	30	45.9%	21.4%	23.9%	3.6%	4.8%	開票率100%
3/1	アラバマ	予備選	50	39.4%	15.1%	19.6%	5.5%	9.9%	FiveThirtyEight, 2/24-28
3/1	アラスカ	党員集会	28	28%	24%	9%	2%	9%	Alaska Dispatch, 1/5-12
3/1	アーカンソー	予備選	40	23%	27%	23%	4%	11%	Talk Business, 2/4
3/1	ジョージア	予備選	76	36.8%	20.4%	20.6%	6.2%	7.9%	FiveThirtyEight, 2/18-26
3/1	マサチューセッツ	予備選	42	44.2%	10.5%	18.2%	15.8%	4.1%	FiveThirtyEight, 2/19-26
3/1	ミネソタ	党員集会	38	18%	21%	23%	2%	11%	Star Tribune, 1/28-1/20
3/1	オクラホマ	予備選	43	33.6%	22.3%	21.6%	6.8%	6.3%	FiveThirtyEight, 2/22-28
3/1	テネシー	予備選	58	40%	22%	19%	5%	9%	Marist College, 2/22-25
3/1	テキサス	予備選	155	26.1%	36.2%	17.8%	5.7%	5.4%	FiveThirtyEight, 2/12-26
3/1	バーモント	予備選	16	32%	11%	17%	10%	3%	Castleton University, 2/3-17
3/1	バージニア	予備選	49	38.7%	16.9%	25.0%	6.4%	5.9%	FiveThirtyEight, 2/3-26
-	全米	-	-	35.6% 49%	19.8% 15%	17.4% 16%	8.8% 6%	9.0% 10%	RCP, 2/14-27 CNN/ORC, 2/24-27

(出所) Real Clear Politics, FiveThirtyEight.

今回は、本日のスーパーチューズデーの結果を共和党と民主党それぞれ整理して、両党の指名争いの今後の展望を考えることにしたい。

以上／今村

本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、丸紅米国会社ワシントン事務所（以下、当事務所）はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。

本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当事務所は何らの責任を負うものではありません。

本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。

本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当事務所の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。